

森林生態系保全事業【新規】

●事業の背景

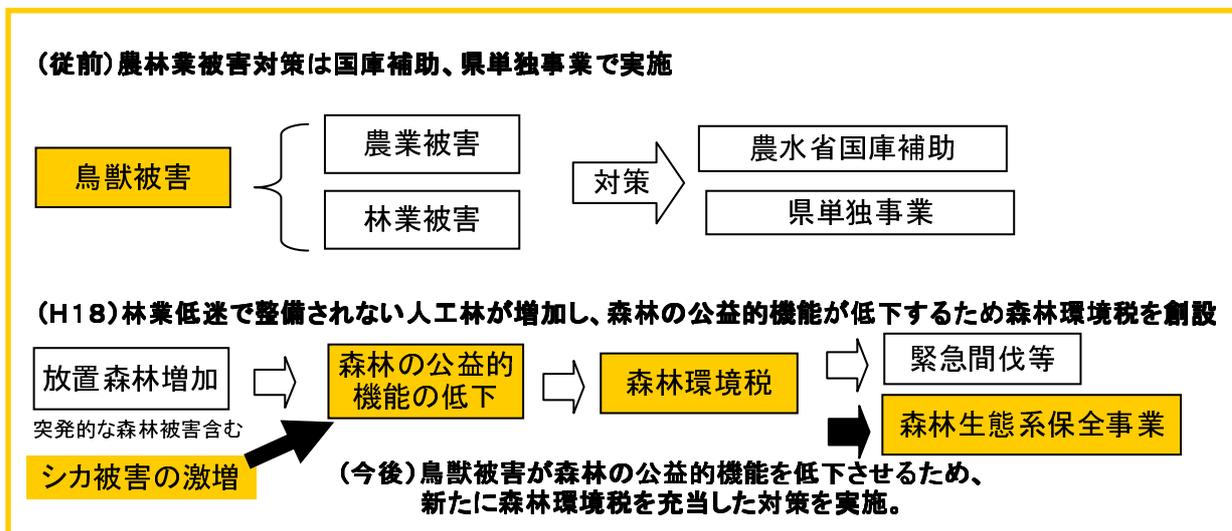
近年、人工林の他、原生林などの天然林においても、増加したニホンジカやツキノワグマ等による樹皮の剥皮等による枯死や、下層植生の食害等が増加している。

例えば、県鳥「コマドリ」の営巣地であるササが食害により減少することによってコマドリの個体数が激減していることや、絶滅が危惧されている山野草「キレンゲショウマ」などの希少な植物が採食され減少していることなどが明らかになり、森林の生物多様性の低下のみならず、保水力の低下に伴う山地崩壊等が危惧されており、県民生活への影響も無視できないものとなりつつある。

さらに、昨年奈良県において再発生したカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害など、これまで発生しなかった森林病虫害による生態系への被害も懸念されている。

このように、林業・木材産業の不振による林業生産活動の停滞に加え、近年はニホンジカ等の森林病虫害獣害が増加しており、県民が享受すべき森林の持つ多様な公益的機能の低下が危惧されていることから、森林環境税を財源とした森林生態系保全の取組を新たに実施する。

野生鳥獣による農林業被害対策と、森林環境税で実施する森林生態系保全取組の整理



●事業概要

① 野生動植物の保護管理の推進

○ニホンジカ・ツキノワグマの保護管理に必要な各種調査等の実施

② 野生獣等による被害防止対策

○ナラ枯れ等の被害状況の把握及び被害防除の実施

●平成23年度予算

中事業名	内容	事業費
ツキノワグマ保護管理事業	出没時の対応、生態調査、普及啓発	1,326
ニホンジカ被害モニタリング調査	定点被害調査	304
特別鳥獣保護区モニタリング調査	生態系調査	185
ニホンジカ個体数調査事業委託	年齢査定	796
緊急的な森林被害対策事業	ナラ枯れ等の被害状況の把握と防除	4,200
計		6,811